

にらめっこ

発行責任者 廣瀬邦治 印西市木下東4-6-13
 TEL/FAX 0476-42-5034 E-メール k_hirose839@ybb.ne.jp
 印西・九条の会ホームページ: <http://inzai9jyounokai.webnode.jp/>



“誰も戦場に送らない” 南スーダン派兵反対 青森集会

安倍政権により南スーダン派遣がねらわれている陸上自衛隊第9師団第5普通科連隊のある青森市で10月30日、「自衛隊を南スーダンに送るな！いのちを守れ！青森集会」が開かれました。主催したのは、「戦争法廃止を求める青森県民ネットワーク」と総がかり行動実行委員会です。



主催者を代表してあいさつした青森県九条の会共同代表の神田健策さんは、11月20日から青森を中心に岩手など東北の各駐屯地の隊員が南スーダンへ派遣され、11日にも戦争法に基づく新任務付与の閣議決定を狙う安倍政権を強く抗議。「私たちは負けてはいない。市民と野党がしっかりと共闘すれば戦争法発動を阻止する力になる」と訴えました。

参院選青森選挙区で野党統一候補として当選した田名部匡代（たなぶまさよ）参院議員が「参院選で託されたのは平和への願い。諦めることなく、戦争法廃止へ力をつくします」と訴えました。

総がかり行動実行委員会共同代表の高田健さんは「国民の命をもてあそぶ安倍内閣の動きを止めるたたかいを全国に広げよう。市民と野党が共闘し安倍政権を倒す」と呼びかけました。

子どもたちと一緒に登壇した「安保関連法に反対するママの会@青森」の坂本麻衣子さんは「自民党王国だった青森は野党統一候補を当選させる選択ができる。総選挙で勝って戦争法を廃止させよう」と訴えました。

憲法公布70年 各地で集会

日本国憲法を守り生かすのか、それとも安倍晋三政権が狙う改憲で「戦争する国」に突き進むのか、憲法をめぐるせめぎ合いが激しくなる中で、1946年11月3日の憲法公布から70年を迎えました。全国各地で「憲法守れ」「憲法を破壊する戦争法を阻止しよう」「改憲反対」などを訴える集会やデモ行進、街頭宣伝、講演会などが多彩に行われました。

市民と野党の共同の力

原発再稼働にノー！新潟県知事に米山隆一氏

東京電力柏崎刈羽原発の再稼働を最大の争点にたたかわれた新潟県知事選で、市民と野党の統一候補・米山隆一氏（医師・弁護士）が、自民・公明推薦候補に6万票以上の大差をつけ勝利しました。



当選を喜ぶ米山隆一知事候補（中央）と支持者＝10月16日、新潟市の米山選挙事務所

米山隆一新知事は選挙戦を振り返り「共闘はお互い信頼していることが重要で、それは周囲に絶対伝わるものだと思います。今回みなさんが信頼し合ったおかげで素晴らしいたたかいはできました」と語りました。

柏崎刈羽原発の危険な再稼働は認められないとする県民の強い意志が鮮明に示され、また、コメどころ新潟県で環太平洋連携協定（TPP）の早期批准をすすめる安倍政権への批判の意志表示ともなりました。

総力体制をとった自公陣営との大激戦を制したことは、市民と野党が本気で力を合わせれば、政治を変えることができることを示しました。



【投稿】

私は、坂村真民さん（明治42年ー平成18年・97歳没）の詩が大好きです。

「沈黙」というタイトルです。タナカ・ヒロコ

沈黙は
現代最大の罪悪だ

耳に手をあてるな
目に覆いをするな
心のふたをとれ

そしてつねに
ヒロシマのドームに
耳を目を心を
押しつけ結びつけ
自分を社会を世界を
見直し考え直し
こえを合せて叫べ

そこからはじめて
正しい力が出てくるだろう
地球上にかつてない混乱が
到来しようとするとき

沈黙は
人間最大の罪悪だ

「沖縄・戦跡めぐりと基地闘争と連帯の旅」に参加して

10月28、29、30日で船橋市平和委員会が主催する旅行に参加しました。28名のバス旅行でした。案内は3日間沖縄県平和委員会の横山さんがついてくれました。

28日お昼頃那覇に到着し、早速、オスプレイが20基も配備されている普天間基地をみおろす嘉数高台（激戦地）へ、そして極東最大の米軍嘉手納基地を見学し、北部のヤンバルの森で建設中のヘリパッド基地東村高江へ向かいました。入口には機動隊員がズラリと並びフェンス越しに中を見ようとすると私達にビデオカメラを回していました。

すでに、1日あたりジャリトラが4,50台運びこまれているそうです。テント小屋で闘争中の方からの説明をお聞きし、カンパ（総額18万円を高江と辺野古へ）を手渡すことができました。

2日目は中部にある本部町から三角形の山が特徴の伊江島へフェリーで渡りました。海の色がブルーとコバルトブルーできれいでした。



阿波根さんの活動を語り継ぐ謝花悦子さん

伊江島の67%が米軍基地で島民を島から全員追い出してその間にブルドーザーで家も畑もつぶして基地にしてしまったそうです。

なんとひどいことをするのかと胸がつまりました。土地闘争の歴史を伝える「島の記憶」を非暴力、平和思想を体現し阿波根昌鴻氏が設立した「反戦平和資料館」「わびあいの里」へ行

き、謝花悦子さんからお話をききました。

河波根さんが書いた「平和の最大の敵は無関心であり、戦争の最大の友も無関心である」という言葉が心に残りました。

午後は大浦湾の辺野古新基地建設反対の団結小屋を訪れ、美しい海をみながら、現状のお話を聞いて、そこでもカンパを渡すことができました。その日は大浦湾の海岸で名護市民の集会があり、みんなで参加しました。名護市長の力強い軍港新基地建設絶対反対の訴えと団結の呼びかけを聞いて胸が熱くなりました。

辺野古は、ベトナム戦争時代からアメリカが軍港にしようとしていたところであり、普天間の移設どころか新巨大基地であることがわかりました。また普天間も、20年ぐらい前に訪れた時は、移設するということでしたが、今はオスプレイを配備し、改修して居すわろうしているようでした。許せない話です。沖縄県民に何故ここまでひどい仕打ちを続けるのか、安倍首相の責任は重大です。この美しい海を絶対こわしたくないと、建設断固阻止を強く思いました。

3日目は南部の戦跡をめぐりました。

全長270mのまっくらな糸数マブチラガマの中に横山さんの案内で入りました。文字通り懐中電灯だけが頼りのガマでした。足元はゴツゴツした石灰石で危なく地下水で湿っていました。病院の分院にもなっていたので、負傷兵が次々、総数で600人も運びこまれたそうです。看護婦、兵隊、住民、そして慰安婦、大勢の人達が生活をしてたと説明されても想像できませんでした。本当に苛酷なことです。

その後は平和記念公園、魂魄の塔、ひめゆり資料館へ行き、最後は瀬長亀次郎さんに関する展示物がある不屈館へ行きました。そこでは瀬長さんの生前の活躍を収めたビデオを視聴し、娘さんからのお話しをおききました。

夜の交流会では沖縄料理を食べながら、日本共産党の沖縄県議会議員から沖縄の現状などのお話をくわしく聞かせていただきました。

胸いっぱい充実した3日間でした。沖縄本島フルコースの旅で、参加できて本当によかったと思いました。

廣瀬 直美

いんざい産業まつりに なぜ自衛隊ブース？



11月5日いんざい産業まつりにて



～ 憲法を知り考える企画のご案内 ～

「不思議なクニの憲法」上映会

(第9回 憲法を知り考えるつどい)

- ・日時：11月19日(土) 午後1時30分～4時30分
- ・会場：中央公民館 視聴覚室 木下駅徒歩5分
- ・内容：ドキュメンタリー映画「不思議なクニの憲法」上映会
- ・参加費：1,000円(高校生以下無料)、予約不要、自由参加
- ・主催：印西・九条の会
安保法制(戦争法)の廃止をめざす印西の会
- ・後援：印西市・印西市教育委員会



初心者向け勉強会シリーズ

ミニ「憲法学習会」が始まりました

▼第2回 ミニ「憲法学習会」

- ・日時：12月3日(土) 午前11時半～午後0時半
- ・会場：市民活動支援センター 活動室 千葉NT中央駅徒歩5分
- ・講師：山口陽一氏(東京基督教大学教授)
- ・テキスト：「新しい憲法草案のはなし」(600円)
自民党憲法改正草案が、どのような思いと狙いで作られたかが、大変よくわかります。
- ・主催：印西・九条の会
- ・参加：無料、予約不要、ご自由にお気軽にご参加を



お話する山口先生
第1回勉強会にて

編集後記

▼今号には2件の投稿が寄せられました。戦争法に続いてTPPの強行、安倍政権の平和もくらしも破壊する暴走が極まる昨今、みんなで声をあげていくことの大切さを痛感させられます。

▼安倍政権は、この15日にも、いよいよ戦争法を発動し、自衛隊に「駆け付け警護」などの新任務を与えようとしています。9日早朝、印西牧の原駅で宣伝行動を行います。自衛隊を南スーダンから撤退させ、戦争法である安保法制の廃止を訴えましょう。

▼いんざい産業まつりの自衛隊ブース、ものものしい装甲車が配置され、パパ・ママと一緒に列をつくる子どもたち。自衛隊員が順番に乗せて遊ばせていました。そしてテント脇には防衛省の「自衛官募集中」の幟旗。子どもたちや大切な人を戦争にとられないよう、気をつけましょう。